

祐介の目



大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.8

毎月1日号に掲載

じた。福山市の現在と未来の責任が自分にあるとは微塵にも感じていない人が多いのだろう。民主主義制度において、『責任者はあなた自身です』という事を初等教育から教えないとまったくひどい事になる。投票で選んだ議員や政党が意に反すると『騙された』という人もいるが、むしろその人は騙した側にあり、為政の責任を一身に負っていただけな」と困る。

投票率の低下について
今回の市議選の投票率は過去最低の49・11%であった。新聞等では「有権者の関心を呼び込めなかった」「争点が無かった」という論調であったが、市議選とは白か黒かという争点よりも、いかに良い議員を選ぶかという選挙だと私は感じている。

いずれにしても、我々立候補者の魅力不足やPR不足を痛感している。しかし、マスコミは議会批判をしても、議員個々の活動を紹介することはまず無い。さらに、有権者の責任も重大ではないかという、NPO法人「広島まほろばの会」の松田さんの意見を紹介したい。

『低投票率は『投票したい議員がいなく』『誰を選んでも一緒』という、何か『誰かのせい』という感覚が蔓延した結果ではないか。有権者が今やサービス受給者感覚、責任や義務を果たさずに権利ばかり主張する『傍観者意識』が高まっているように感

以上が松田さんの意見だが、議員もその資質を高める努力を忘れてはならない。議員は選挙に通り返さなければなれる(勉強して資格試験に通る必要が無い)。だからこそ当選後の勉強が必須であり、新人議員の方ではぜひ「議員力検定」に挑戦してほしいものだ。その気になれば政経塾への参加や、社会人大学院への通学もできる。そのような姿勢が見えないと、選挙は就職活動であったのかと誤解される。

結局、投票率の低下は議員、マスコミ、有権者の3者の共同責任であることは間違いない。大阪市の橋下市長のように、政治は大人の「喧嘩」であり、選挙は「戦い」であるといった、有権者が選挙に行きたくなる「面白さ」を引き出すことも必要だろう。